

令和3年 12月 15日

令和3年度 ユネスコスクール NISHITA 校内研通信 No. 5

研究推進部 研究主任 佐々木

4年生 総合的な学習の時間「みんなにやさしいまち」

4年3組

◆本時について

「バリアフリー・ユニバーサルデザイン等」があることで、どのようにして「やさしい結果」に結びつくのか考えよう。

◆協議会での意見 授業を振り返る視点

〈分科会提案〉

・ロイロを使うことで、頭の整理ができた。

〈授業者自評〉

・ロイロの活用の仕方を主に授業を組み立てた。型をつくって当てはめる方法にした。「やさしい」の意味は、簡易など広範囲に捉えて進めてきた。子供がじっくり言葉の選び方は課題だった。

〈各学年から〉

・色付きのカードや並びかえなど、ロイロのよさを活かして思考ツールとして使えていた。

・共有による視野の広がり、意見の違いをとことん話し合えるといい。

・「対象」についてはアドバイスしやすい。「解消理由」についてこれからもっと深めたい。

・UDの多様性を知ることができた。関心・視点の違いや広がりを共有する課題につなげたい。

・優しい結果になるだろう、と決めつけてしまったところはどうだったのだろうか。

・クラスや友達に優しくなれるような表示があってもいい。

・アドバイスができていたので、視点が育った。静かな様子は思考を深めていた。

・写真がトップの方が子供にとって、考えやすいのではないだろうか。

・社会的弱者に対象を絞っても良かった。対象者が広がっているのはよかった。

・あえて、優しくない写真があってもよかった。

・どのようにして、優しい結果に…というのが難しかった。

・子供たちの意思が見えづらかった。どこかに発信できるようなゴールがいいのではないか。

〈分科会から〉

4年全員がロイロを使いこなしているわけではない。画像については、荻窪公園で見付けたものを地図にかいて、それぞれまとめたものから撮影して準備した。型についても、子供たちと相談して型をつくったという経緯があった。型を経験することで、自分で何かを作る時にヒントになればいいと思う。

【講師の先生より】

- ・大人が聞いてもおかしくない言葉使いを指導する。 ・文脈上答えられる質問はしない。
- ・評価基準との整合性をとる。
- ・「ロイロノートの使い方」について学校として統一できるよう実践を積み重ねる。
- ・話合いの時間がよりダイナミックになるような授業を期待したい。
- ・SDGsピラミッド：どれも大事だが、順位付けをするとするならば…思考・他者との合意形成

【研究主任より】

学習発表会の準備期間という忙しい時期に、授業づくりに取り組んでくださった4学年の先生方、ありがとうございました。学年の先生方で力を合わせて総合の授業づくりをされていることが良く分かりました。今後の進展が気になります。事後授業等していただくと大変勉強になります。

棚橋先生のお話から、1年間で育成を目指すESDの資質能力・価値観について、本校ではESDで目指す資質能力・価値観（以下、「ESDの価値観」）を明確にした、生活科・総合的な学習の時間の単元計画づくりを行っています。今年度は校長先生が、来年の80周年に向けて、「SDGs17パートナーシップで目標を達成しよう」を重視することを、昨年度の未来の学校で示しています。ESDの資質能力、価値観では「つながりを尊重する態度」や「相互性」などにあたるでしょう。今年度のこれまでの取り組みをふり返り、どんな力が育ったか、所見作成とともにふり返ってみたいと思います。